

— 令和5年度の学校評価について —

(協働型学校評価の重点目標を中心として)

到達目標「豊かなコミュニケーション力の育成」
重点目標「相手や場に応じた挨拶や優しい言葉づかいができる」

児童による「学校生活アンケート」は令和5年6月と12月に実施しました(12月は回収率90%)。「保護者による学校評価」は令和5年12月に実施しました(回収率60%)。「地域による学校評価」は令和5年12月に、小松島小学区内の町内会長、関係団体、学習ボランティアや防犯ボランティアの皆様を実施しました(回収率59%)。これらのアンケートから「挨拶」や「言葉遣い」に関する項目において、「はい」及び「少しはい」と回答した割合(肯定的評価)をまとめたところ、以下のような結果となりました。なお、20日に行われた学校運営協議会でもこの評価について話し合いました。

「挨拶」

対象	質問項目	肯定的評価(昨年)
児童	お家の人と挨拶をしている	90%(91%)
	先生と挨拶をしている	87%(90%)
	友達と挨拶をしている	87%(87%)
	学校に来た人や地域の人と挨拶をしている	75%(75%)
保護者	お子さんは、家族などの身近な相手に挨拶や返事をしている。	94%(96%)
	お子さんは、地域や近所の方々に進んで挨拶をしている。	59%※(64%)
地域	小松島小の子供たちは、元気に挨拶している。	86%(96%)

「言葉遣い」

対象	質問項目	肯定的評価
児童	「ふわふわ言葉」を使って話している。	92%(90%)
	「ふわふわ言葉」を言われてうれしかったことがある。	87%(86%)
保護者	お子さんは、丁寧な言葉遣いをしている。	61%※(72%)
	親としても丁寧な言葉遣いをするように心掛けている。	80%(85%)
地域	小松島小の子供たちは言葉遣いが適切である。	91%(100%)

結果を見ると昨年より肯定的回答が少なくなった設問もありますが、一部の設問(※)を除いて、おおむね昨年同様よい結果が得られました。学校での「ふわふわ言葉」の取組が浸透していることが分かります。また保護者の自由記述で、家庭において「大人が手本を示す」「その都度教える」「家で話を聞くようにしている」など、保護者の方も家庭でたくさん働き掛けをしてくださっていることも分かりました。

一方、下記のような結果も得られ(肯定的回答が7.5割未満の質問項目)これらが今年度の本校の課題点となることが考えられます。家庭での学習習慣の形成、コミュニケーション力の育成が望まれることが分かります。

対象	質問項目	肯定的評価
児童	授業中、自分が考えたことを書いたり話したりしている。	71%
	話し合いでは、よく相手の話を聞いている。	71%
	困ったときは、まわりの人に相談している。	73%
保護者	お子さんは地域や近所の方々に進んで挨拶をしている	59%
	お子さんは、丁寧な言葉遣いをしている。	61%
	お子さんは学年×10分以上学習する習慣が付いている	64%
	お子さんは、家庭で読書する習慣が付いている	47%